

# 第90期 事業のご報告

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

## 株主メモ

■ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 ■ 定時株主総会 毎年6月開催  
 ■ 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当金 毎年3月31日  
 中間配当金 毎年9月30日  
 そのほか必要があるときは、  
 あらかじめ公告して定めた日

■ 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 株主名簿管理人 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 (郵便物送付先) 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 (電話照会先) ☎0120-094-777 (通話料無料)  
 (インターネットホームページURL)  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

■ 単元株式数 100株  
 ■ 公告方法 電子公告  
 当社のホームページ  
 〈<http://www.tatsuta.co.jp>〉に  
 掲載する。  
 ただし、事故その他やむを得ない  
 事由によって電子公告による  
 公告をすることができない場合  
 は、日本経済新聞に掲載して行う。

■ 上場証券取引所 東京

(ご注意)  
 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、株主様が口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。  
 2. 証券会社に口座を開設なされておられない株主様のお手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である下記までお問い合わせください。  
 特別口座の口座管理機関  
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社証券代行部  
 (電話照会先) 0120-782-031  
 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にて、お支払いいたします。



代表取締役社長 木村政信

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
 当社第90期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

平成26年6月

## 【営業の概況】

当期における我が国経済は、政府経済政策や日銀の積極的金融緩和策等により、円高の是正、株価の回復等が進み、景気回復の明るい兆しが見えて来るようになりました。その一方で、新興国経済の減速、輸入品価格の上昇等国内景気の下振れ要因が現われ、また、国内雇用情勢や所得環境も具体的な改善の段階まで至らない中で本年4月の消費税引上げを迎えるなど、先行き不透明感を拭いきれない状況が続いております。

この間における我が国の銅電線需要量は、期前半は建設・電販向けを除き軒並み需要が低迷する状況にありましたが、期後半に入りようやく設備投資等の回復もあって、自動車、電気機械あるいは電力向け需要も上昇に転じ、期全体としては前年を若干上回るものとなりました。電子材料分野については、スマートフォン等携帯端末向けの世界需要は総じて好調でしたが、一部ハイエンドモデルやタブレット向けについてはやや伸び悩み傾向が生じる等、需要構造の変化が見られるようになりました。

当期において当社グループは、このような環境下において引き続き効率的な生産・販売活動を推進するとともに、将来を見据えた研究開発および新規事業開発に注力する等、中長期的視点に立った事業全般にわたる競争力の強化のための各種施策を進めてまいりました。その結果、当連結会計年度の連結売上高は511億7千9百万円（前年度比10.3%増）、連結営業利益は46億8千5百万円（前年度比16.0%減）、連結経常利益は48億4千7百万円（前年度比17.3%減）、連結当期純利益は33億3千1百万円（前年度比19.8%増）となりました。

## 電線・ケーブル事業

銅建値が前年に比べ高めに推移した状況の下、期後半を中心に建設・電販向けの需要が堅調であった他、電力向けの販売増もあり、売上高は295億3千3百万円（前年度比16.0%増）となりました。また、こうした売上の増加に事業構造改善によるコスト削減効果が加わり、営業利益は4億9千2百万円（前年度比8億2千9百万円増、前年度は3億3千7百万円の営業損失）となりました。

## 電子材料事業

主要製品である機能性フィルム等の導電機能性材料の販売は、スマートフォン等携帯端末向けの需要は総じて好調に推移しましたが、一方で販売価格の低下もあり、この結果、売上高は202億5千6百万円（前年度比3.7%増）となりました。営業利益は当期初に竣工したタツタテクニカルセンターでの各種事業開発活動の強化に伴う費用増があり、営業利益は46億9千9百万円（前年度比25.8%減）となりました。

## その他事業

環境分析事業は増収、また機器システム事業の販売も前年より若干増加いたしました。フォトエレクトロニクス事業分野の売上高が需要立ち上がりの遅れにより減少した結果、セグメント売上高は14億1千2百万円（前年度比1.9%減）、営業利益は1億1百万円（前年度比122.5%増）となりました。

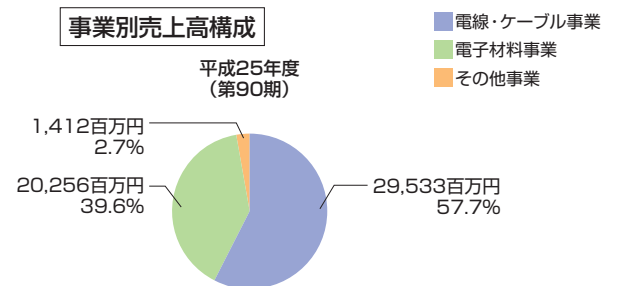
今後の我が国経済は、各種経済対策の進捗や米国など堅調な海外景気を背景とした輸出環境の改善等により、緩やかな回復基調で推移するものと思われます。こうした中、電線業界においては民間設備投資および公共投資の増加による需要増が期待されておりますが、反面、消費税増税による影響や電力会社の設備投資抑制等の懸念要因も残っております。

また、スマートフォン等携帯端末向けの世界需要については、引き続き堅調な伸びは見込まれるものの、製品のコモディティ化の本格的進展を背景に、これまでとは異なる次元での競争環境の激化が進むものと想定されます。

当社グループは、このような状況の下、電線・ケーブル事業においては、一層の品質の向上および確かな納期対応を基本目標に、グループの最適かつ効率的な生産体制の確立を引き続き進めてまいります。また、FAケーブル分野に関して、新たにグループの一員になった立井電線株式会社との連携を深めつつ、事業体質の強化および新たな市場開拓による販売伸長を図ります。

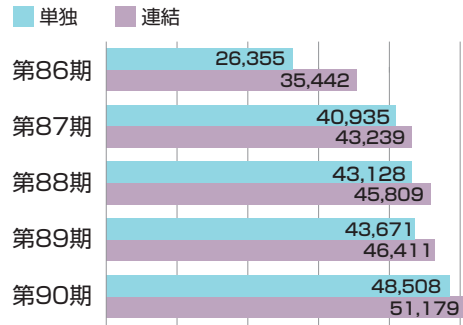
電子材料事業においては、引き続き一定の伸びが見込まれる機能性フィルム事業について、顧客目線でのサポート活動をより一層強化するとともに、高機能製品の適宜の市場投入および生産供給体制の整備を進めることにより、市場での高シェアの維持、確保を図ります。また、昨年度完成したタツタテクニカルセンターでは、基盤要素技術の開発の他、今後の当社事業の柱を創出することを目的に、電子材料以外の分野もターゲットとした各種事業開発の取組みを進めており、これの早期立ち上げに努めてまいります。

株主各位の一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

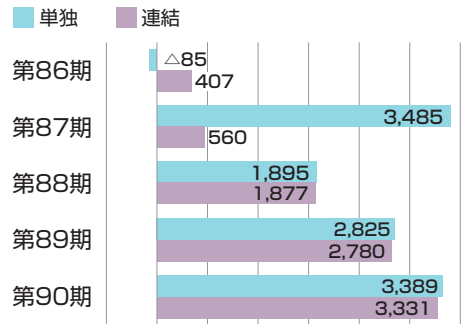


# 業績ハイライト

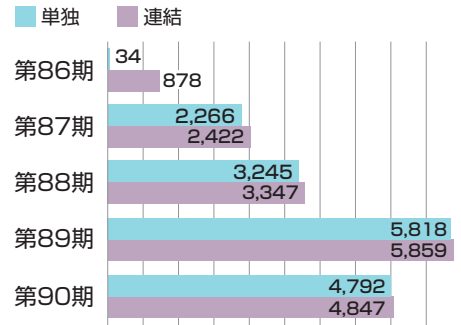
売上高 (単位/百万円)



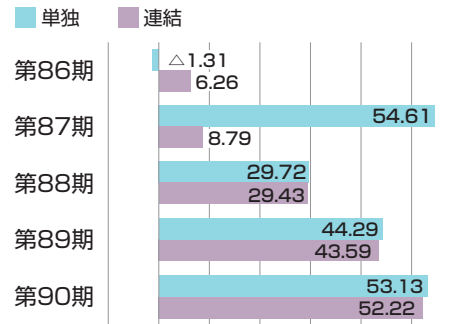
当期純利益 (単位/百万円)



経常利益 (単位/百万円)



1株当たり当期純利益 (単位/円)



	第86期 (平成22年3月)	第87期 (平成23年3月)	第88期 (平成24年3月)	第89期 (平成25年3月)	第90期 (平成26年3月)
売上高 (百万円)	35,442	43,239	45,809	46,411	51,179
経常利益 (百万円)	878	2,422	3,347	5,859	4,847
当期純利益 (百万円)	407	560	1,877	2,780	3,331
1株当たり当期純利益 (円)	6.26	8.79	29.43	43.59	52.22

# 財務諸表

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	当期末 (平成26年3月31日現在)	前期末 (平成25年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	29,102	27,503
固定資産	13,071	11,165
有形固定資産	11,551	9,164
無形固定資産	296	110
投資その他の資産	1,223	1,890
資産合計	42,174	38,668
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,240	6,817
固定負債	3,412	2,317
負債合計	10,652	9,134

### 純資産の部

株主資本	31,931	29,367
資本金	6,676	6,676
資本剰余金	4,536	4,536
利益剰余金	22,302	19,736
自己株式	△ 1,583	△ 1,581
その他の包括利益累計額	△ 416	165
- その他有価証券評価差額金	152	103
- 繰延ヘッジ損益	△ 43	45
- 為替換算調整勘定	99	17
- 退職給付に係る調整累計額	△ 624	-
少数株主持分	6	-
純資産合計	31,521	29,533
負債・純資産合計	42,174	38,668

### 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	当 期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	前 期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
売上高	51,179	46,411
売上原価	39,456	34,898
売上総利益	11,723	11,513
販売費及び一般管理費	7,037	5,932
営業利益	4,685	5,580
- 営業外収益	260	350
- 営業外費用	99	71
経常利益	4,847	5,859
特別利益	225	-
特別損失	68	1,210
税金等調整前当期純利益	5,003	4,649
- 法人税、住民税及び事業税	1,603	1,921
- 法人税等調整額	69	△ 52
少数株主損益調整前当期純利益	3,331	2,780
当期純利益	3,331	2,780

### 連結包括利益計算書

(単位: 百万円)

科目	当 期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	前 期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
少数株主損益調整前当期純利益	3,331	2,780
その他の包括利益		
- その他有価証券評価差額金	49	6
- 繰延ヘッジ損益	△ 89	43
- 為替換算調整勘定	82	21
その他の包括利益合計	42	71
包括利益	3,373	2,852
(内訳)		
- 親会社株主に係る包括利益	3,373	2,852
- 少数株主に係る包括利益	-	-

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科目	当 期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	前 期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,754	6,163
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 751	△ 5,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 885	150
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 18	△ 10
現金及び現金同等物の増減額	99	581
現金及び現金同等物の期首残高	1,330	749
現金及び現金同等物の期末残高	1,430	1,330

# 会社情報

## 会社概要 (平成26年3月31日現在)

- 社名 タツタ電線株式会社
- 本店所在地 大阪府東大阪市岩田町2丁目3番1号
- 設立年月日 昭和20年9月28日
- 資本金 6,676,227,664円
- 従業員 連結 707名 単体 442名
- 事業内容 電線・ケーブル、電線・ケーブル付属品、電子材料(機能性フィルム、導電性ペースト、ボンディングワイヤ、防錆材)、機器システム製品(防災関連、病院・薬局合理化関連)、光関連製品(コネクタ端末加工、カブラ)の製造販売及び環境分析事業等その他のサービス事業



本社・大阪工場 テクニカルセンター 京都工場

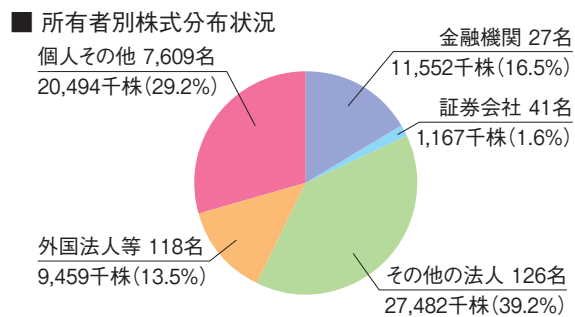
## 役員 (平成26年6月27日現在)

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ■ 代表取締役社長       | 木村 政信  |
| ■ 代表取締役 副社長執行役員 | 橋本 和博  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 門脇 信好  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 三村 弘治  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 中野 紳一郎 |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 西川 清明  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 柴田 徹也  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 檀上 芳郎  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 高橋 靖彦  |
| ■ 取締役 常務執行役員    | 津田 多聞  |
| ■ 常勤監査役         | 平井 洋行  |
| ■ 常勤監査役         | 小笠原 亨  |
| ■ 監査役           | 吉濱 浩一  |
| ■ 監査役           | 三浦 貴彦  |

## 株式の状況 (平成26年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 156,693,000株
- 発行済株式の総数 70,156,394株
- 株主数 7,921名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
JXホールディングス株式会社	22,739	32.4
タツタ電線株式会社(自己株式)	6,368	9.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,061	4.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,131	3.0
住友金属鉱山株式会社	1,921	2.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,497	2.1
THE BANK OF NEW YORK MELLON AS AGENT BNYM AS EA DUTCH PENSION OMNIBUS	1,245	1.8
日本興亜損害保険株式会社	1,179	1.7
個人株主A	1,015	1.4
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	1,006	1.4



## ■ ホームページ



アドレス <http://www.tatsuta.co.jp>

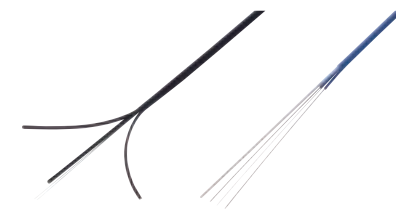
# TOPICS トピックス

## タツタの特長ある製品紹介

### タツタ独自の鳥獣害対策ケーブル

タツタ独自の材料技術を用いた「セミ対策ウレタンシース」使用の光ドロップケーブル「せみタフ!®」。クマゼミによる断線被害を防止し、耐衝撃性・耐摩耗性に優れ、さらに低摩擦性が高く、ケーブル敷設時の作業性に優れています。

新しく開発した高密度の「蟻対策ポリオレフィン材料」を用いた「新防蟻ケーブル」。有害物質を含まず安定した防蟻特性を発揮します。

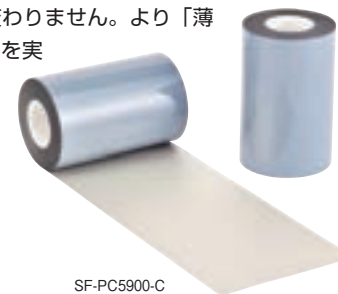


セミ被害対策光ドロップケーブル「せみタフ!®」

### 優れた性能と品質の機能性フィルム

#### 8μm超薄型FPC用電磁波シールドフィルム「SF-PC5900-C」

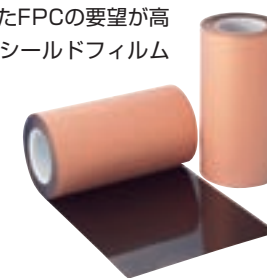
総厚8μmという超薄型のフィルムを実現。超薄型を達成してもシールド性能などの基本特性やFPCへの加工性は従来品と変わりません。より「薄く」より「軽く」を実現し、携帯端末用途でのご要望におこたえます。



SF-PC5900-C

#### 高速伝送FPC用電磁波シールドフィルム「SF-PC3100-C」

高速伝送FPCに最適な電磁波シールドフィルムです。スマートフォン、タブレットPCには高速化が要求され、伝送特性に優れたFPCの要望が高まっています。従来のシールドフィルムに比べ、伝送損失が小さく、FPCの高速伝送化を実現します。



SF-PC3100-C

### タツタの漏水検知システム

「タツタの漏水検知システム」は、データセンターやオフィスビルさらには半導体工場などで水漏れ(液漏れ)が起こったことを検知して管理者に伝えるシステムです。化学繊維で被覆した銅線をセンサとして使用。電線製造で培った金属加工技術や絶縁体などの被覆技術といったタツタの基幹技術を応用したシステム製品です。



漏水検知システム